

令和8年度 中濃特別支援学校 授業づくり研修会開催

6月29日に第1回「研修の日」を開催しました。本年度は、『児童生徒一人一人の確かな学びを目指す授業づくり～単元のまとまりに焦点を当てた学習評価の在り方～』という主題研究テーマを掲げ、3カ年計画で取り組んでいます。

研究の場としては、「教科」に視点を当て、小・中学部は算数・数学の授業、高等部は作業学習の中で数学の視点をより取り入れた実践を行っています。3カ年計画の1年目は、児童生徒一人一人の算数・数学の学習状況を丁寧に整理・把握し、各教科のどの段階のどの内容がどの程度身に付いているのかを明確にすることで、個々の実態に応じた分かる授業づくりに力を入れています。

6月初旬には、各研究グループに分かれて、教職員一人一人がどのような授業をしたいか、授業の中で大事にしたい視点は何かなど、教職員の願いを共有する時間を設け、研究をスタートさせています。

研修会当日は、神戸女子大学教育学部教育学科教授の田中裕一先生をお招きして、午前中は、研究授業を参観いただき、午後からは、全教職員と外部からの参加者がホールに集合し、「授業づくり研修会」を開催しました。また、近隣の関特別支援学校の教職員も自校で田中先生の講演をオンライン視聴という形で参加をしました。

研修会の中で、授業づくりを考える上で、児童生徒の将来をイメージし、一人一人の付けたい力やQOL（生活の質）の向上を第一に単元を計画し、日々の授業実践をしていくこと、また、本人や保護者の思いや願いを丁寧にくみ取り、関係機関と一緒に子どもを中心にチームで支えることが大事であるということに改めて実感し確認することができました。日々の評価については、目標設定を児童生徒の具体的な姿で考えることを意識することで、評価は自ずとしやすくなり、個に応じた次へのステップを考えたり、授業改善を行ったりすることができることを、実際の授業の事例を通して学べた大変有意義な機会となりました。

今回の研修会の学びを生かし、今後も日々の教育活動に邁進していきたいと思えます。

研修会の様子



講師の田中先生の話に、真剣な表情で聞き入り、各自やペアで授業づくりについて深く考えることができた研修会となりました。